

笠間市地域交流センターいわまの陶板制作

【開発の背景】



図 1 制作した陶板

笠間市では、市民や市外者を対象とした健康増進や情報発信等の複合的な施設の建設を進めており、地元から採れる原材料や笠間焼の伝統技法を活用した陶板の制作依頼がありました。

地場製品のアピールのため、地域のシンボルをデザインモチーフとし、笠間焼の伝統技法や当センターで研究開発した「箱田石」（市内箱田地区で採れる未利用素材）を釉薬に活用した陶板（図 1）を制作しました。

【開発の経緯・支援内容】

①デザイン

神話に残る「天狗が守る六角形のお堂」をモチーフとし、愛宕山の山並をイメージしたデザインとしました。

②試作及び耐凍害性試験

山並を表現する技法を「釉下彩」（図 2）とし、箱田石を原料とした釉薬と従来釉薬の掛け合わせを検討し、滲み上り効果が高かったジルコン白釉を採用しました。

また、JIS A 5209(1994)に準拠して耐凍害性試験を行いました。

③製品

陶板一枚につき一文字の陶板を制作しました。なお、笠間土の地肌を山並みに見立てるためのマスキングや六角形に成形するための「土殺し」（粘土を均一にする）作業を工夫しました。

上釉	合成土灰白 マット釉	ジルコン白釉	藁灰釉	土灰釉	ビードロ釉

図 2 釉下彩試験結果



図 3 施工された陶板

【開発した製品の紹介】

施工された陶板（図 3）は、耐凍害性試験で問題がみられず、箱田石による釉下彩をはじめ、笠間焼伝統技法が屋外環境でも耐えられることがわかりました。

また、市民や利用者においては会議をはじめ、健康増進や観光情報の提供、物産販売等の新たな拠点としての施設活用が期待されます。

今後は、この研究で得た知識やノウハウを笠間焼業界に移転していく予定です。

基礎となった事業

平成 29 年度 オンリーワン技術開発支援事業（受託研究）

現在の担当部門

笠間陶芸大学校	副 校 長	佐藤 茂	TEL:0296-72-0316
人材育成部門	部 門 長	尾形 尚子	
	主任研究員	常世田 茂	
	嘱 託	根本 達志	
工芸・材料技術部門	主任研究員	吉田 博和	
	主 任	吉田 彩美	
	嘱 託	南部 比呂美	